

恵那市の子育て支援の内容と新規支援

1

妊娠・出産

- ・妊婦健診受診票
- ・たまご学級
- ・もうすぐパパママ学級
- ・産前産後サポート事業
- ・産後ケア※
- 不妊治療費助成
- 出産一時金
- 児童手当
- ・オリジナル出生届
- ・ブックスタート
- ★不妊不育治療費拡充
- ★産後ケア事業拡充
- ★産婦健康診査費助成
- ★多胎児の妊産婦支援

健診・教室・予防接種

- ・各種乳幼児教室・健診(4カ月～3歳)
- ・1歳パパママ教室
- ・歯磨き教室
- ・家庭教育学級
- ・各種予防接種(B型肝炎、ヒブ、四種混合、日本脳炎他)
- ★糖尿病リスク判定(中3)
- ★10代健診(15～18歳)実施

預かり・育児補助

- ・ファミリーサポートセンター※
- ・一時保育
- ・病児保育※
- 非課税・多子世帯無料
- ・育児支援ヘルパー※

お出かけ・交流

- ・こども元気プラザ
- ・子育て支援センター
- ・児童センター
- ・公園
- ・中央図書館
- ★えなえーる活用
- ★中央公園再整備

こども園等

- ・こども園運営
- 所得段階別保育料
- 保育料軽減措置(低所得・障がい・ひとり親)
- 複数同時利用保育料減免等
- 多子同時利用給食費免除

学校

- ・小中学校運営
- 就学援助制度
- 特別支援教育就学奨励制度
- ・適応指導教室
- ・放課後児童クラブ運営※
- 複数同時利用減免・ひとり親減免

ひとり親

- 児童扶養手当
- 医療費助成
- 自立支援教育訓練
- 高等職業訓練促進
- ・福祉資金貸付
- ・支援ヘルパー制度

障がい児

- 特別児童扶養手当
- 障害児福祉手当
- 医療費助成
- ・こども発達センター
- ・児童発達支援
- ・放課後等デイサービス
- ・その他福祉サービス(移動支援・日中一時支援等)
- 自己負担額(1割)助成

相談

- ・えなっ宝ほっとステーション
- ・教育・発達相談センター
- ・乳幼児なんでも相談
- ・福祉総合相談
- ・教育相談
- ★えなえーる活用

その他

- ・えなで暮らそう奨励金
- ★高校生等までの医療費助成
- ★第3子以降のサービス利用料免除

●=経済支援 ★=新規支援(調整中を含む) ※=「第3子以降のサービス利用料免除」の適用サービス

令和4年度の子育て支援策（案）

予算要求 → 査定中

①子ども医療の高校生世代への拡大

高校生等までの医療費助成

②多子世帯（第3子以降）の支援

第3子以降のサービス利用料免除

③妊産婦への支援

不妊不育治療の助成
産後ケア事業の充実
産婦健康診査費の助成
多胎児の妊産婦支援

④相談 交流の場の拡充

えなえーるの活用

- ・親が気軽に話せる場の整備
- ・子ども相談（乳児体重計設置）
- ・交流会、講座（食育、保健師出前教室など）

⑤子どもの健康管理

中学3年生のHbA1c検査実施
（糖尿病リスクの判定）

10代健診中3～18歳）の実施

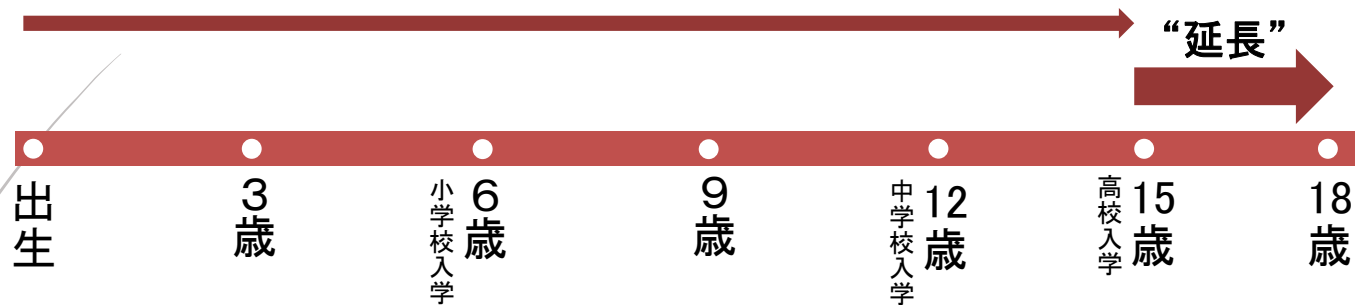
その他

中央公園再整備
（令和4年度の公園改修）

①子ども医療の高校生世代への拡大

●高校生等までの医療費助成

子どもの医療費助成(入院・外来)



●事業の内容

- ・対象年齢の全員に対し、経済支援を、医療費の現物給付の形で行う。
- ・高校生世代は、経済的支出が増えるが、中学生まで受けていた公的支援が薄くなるのをカバー。
- ・適切に医療を受ける機会が確保でき、健康の保持・増進につなげることができる。

②多子世帯(第3子以降)の支援

●第3子以降のサービス利用料免除

●事業の内容

- 学童保育利用料の免除。
- ファミリーサポートの利用料免除。
- 育児支援ヘルパー派遣事業の利用料免除。
- 産後ケア自己負担額の免除。
- 病児保育所の利用料免除。

③-1 不妊治療費への助成

●不妊治療費に助成(保険適用など国の動向によって変更)

●事業の内容

- ・当面は現在の治療費助成を維持。(県助成との整合が必要)
- ・保険適用など国の施策(未定)により助成の形態を変更する。

●不妊治療通院に対する通院費助成

●事業の内容

- ・治療に関する交通費を助成。(市単独事業)
現在補助申請をされる方のほとんどは、多治見・春日井市の医療機関に通院をされているため、交通費の助成を実施する。
例：県内1回1,000円、県外1回2,000円など回数に応じて助成を検討。

③-2 妊産婦に対する支援

●産後ケア事業の充実

●事業の内容

- ・出産後に心身のケアや子育てのサポートを受けられるよう産後ケア事業「宿泊型」と「デイケア型」を実施しているが、自宅でのサポートが受けられるように「訪問型」の産後ケアを新設。助産師、保健師が訪問して実施する。

●産婦健康診査費の助成

●事業の内容

- ・現在産前の診査には14回分のクーポン券を配布しているが、産後の診査にも対応できるように2回分の産後用クーポンを発券し産婦の健康を見守っていく。

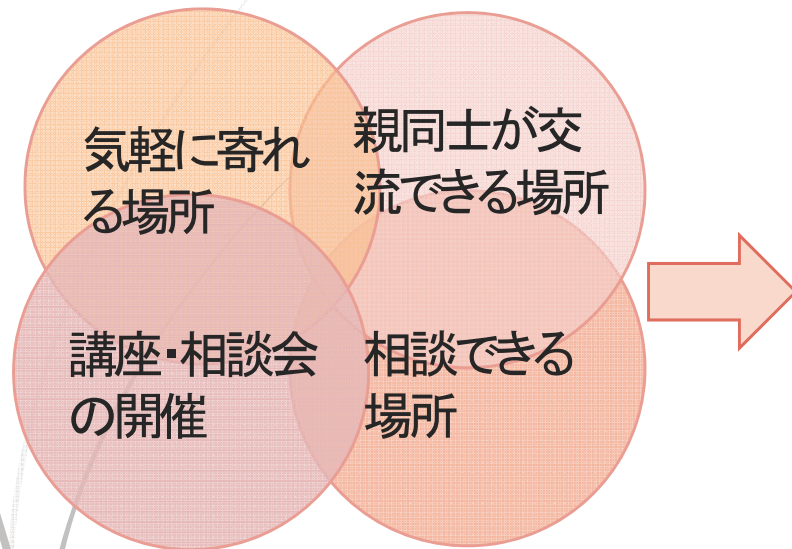
●多胎児の妊婦支援

●事業の内容

- ・多胎児を持つ家庭に対し、赤ちゃん訪問、健診サポート（同行支援）などを実施。双子等妊娠期サポートを実施し、多胎児育児への不安や負担感や孤立感の軽減を図る。

④相談 交流の場の拡充

子育て不安の解消



えなえ～るの活用

(保護者の子育て不安に対応)

- ・親が気軽に話せる場の整備
- ・子ども相談(乳児体重計設置)
- ・交流会、講座(食育、保健師出前教室など)

●事業の内容

- ・コロナ禍で外出する機会も少なくなっており、親子で引きこもりがちとなっていることが心配される。
- ・子育ての相談や、同じ年代の子を持つ親同士が交流できる機会を増やす。恵那中央出張所の立地を活かし、買い物をついでに気軽に立ち寄ることで、相談や交流へとつなげる。

⑤子どもの健康管理

子どもの肥満がみられる

高校生の年代の検診内容が薄い

若いうちから健康に関心を持つ必要

若年性の生活習慣病を防ぐ

- 中学3年生のHbA1c検査実施（糖尿病リスクの判定）
- 10代健診（中3～18歳）の実施

● 事業の内容

- 他市と比べて恵那市の子どもは肥満の子が多く、隠れ糖尿病予備軍も存在するため、若いうちから「健康のために検査を受ける」意識を持ってもらいたい。
- 学校で実施する血液検査に、糖尿病リスク判定検査を追加。
- 18歳以上となっている「若い人健診」の対象者を、中学3年生まで引き下げる。